

科目名 薬理学 時間割表記名 薬理学		配当時期 1 年次 後期 単位数 1 単位 時間数 30 時間(15回)	講義担当者 三角 紳博
事前学習内容 教科書を用いて学習内容の予習をして参加する。			
科目全体のねらい・授業目標 1. 薬理学の概念や特性、薬物療法の基本原則を説明できる。 2. 主要な薬物の作用機序を理解し、主作用と副作用の関係を理解できる。薬物の安全な取り扱いについて理解できる。			
DPとの関連 DP2. 一人ひとりの健康状態に応じて、最善の看護を選択し、科学的根拠に基づいた看護を実践できる DP4. 保健・医療・福祉システムにおける自らの役割を理解し、多様な場で生活する人々の生活の質の向上のために多職種と連携・協働する意義と方法を理解することができる。			
授業の流れ			
回	学習内容	方法	備考
1	1.薬理学総論(1)	講義	
2	1)薬の作用と使用目的 2)薬物治療の概念 3)情報伝達 2.薬理学総論(2) 1)薬の作用部位:受容体 2)イオンチャネル 3)酵素		
3	3.薬理学総論(3)	講義	
4	1)薬物動態と薬効に影響する要因 2)薬の有害作用 3)TDM 4.感染症とその治療 1)消毒薬及び抗生物質 2)感染症		
5	5.末梢神経作用薬(1)	講義	
6	1)神経系の仕組み 2)局所麻酔薬 6.末梢神経作用薬(2) 1)交換神経作用薬 2)副交感神経作用薬		
7	7.中枢神経作用薬(1)	講義	
8	1)全身麻酔薬 2)催眠薬 3)抗不安薬 4)抗てんかん薬 8.中枢神経作用薬(2) 1)抗精神病薬 2)抗うつ薬 3)抗パーキンソン病薬 4)麻薬		
9	9.炎症とアレルギー	講義	
10	1)オータコイド 2)NSAID 3)ステロイド性抗炎症薬 4)抗アレルギー薬 10.循環器系作用薬 1)心不全 2)強心配糖体 3)心筋梗塞・狭心症 4)抗不整脈薬		

11	11.呼吸器作用薬	講義	
12	1)抗喘息薬 2)鎮咳薬 3)去痰薬 12.消化器系作用薬 1)抗潰瘍薬 2)制吐薬 3)下剤 4)肝炎		
13	13.泌尿器系作用薬	講義	
14	1)利尿薬 2)血液及び造血系 14.内分泌系とホルモン剤 1)性ホルモン 2)糖尿病 3)インスリン 15.化学療法剤・漢方薬 1)がん 2)東洋医学		
15	まとめ 45 分 筆記試験 45 分	講義、筆記試験	
受講上の注意 事前学習・事後学習をきちんと行う			評価方法 筆記試験
使用するテキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進[3] 薬理学 医学書院 参考文献			